2013年
7月25日
第516号

新運転

TOKYO JTUC DRIVERS CRAFT UNION

発行人
新産別運転者労働組合
（略称・新運転）
編集兼発行人 太田 武二
〒110-0003
東京都台東区根岸3－25－6
TEL 03－5603－1015
FAX 03－5603－5351
mail：sinunten@yahoo.co.jp

第23回定期全国大会
職安法による最良の需給調整事業の継承発展のために労供事業法の制定を！

去る6月22日、第83回中央執行委員会の審議を受けて第23回定期全国大会が午後3時半から開かれた。全国から役員と代議員が結集し、宮田副委員長の開会挨拶と議長指名によって東京地本の羽山代議員が選出され、書記に田中滋賀地本書記長、大会諸役員に各地本から1名と執行部から岩井東京地本南支部長が選出された。

冒頭の篠﨑委員長挨拶は、「アベノミクスは造語としては理解できるが、私たちはこの間の色んな計画がそのまま上手く行くのだろうかと思っている。経済は難しいと言う事が実際にあるが、デフレを通り越して今度はインフレに持って行こうとの事である。今のところは掛け声だけで大騒ぎしているように感じる。我々は企業内組合と異なった形態でこれまで運動を続けて来たが、ここに来てもう一度良く洗いなおして心機一転、全体の空気を一つの方向に持っていくには、何が必要だろうかと皆さん方に聞きながら方向性を決めていきたい。この組合は54年の歩みがあり、世間的には定着してきた。しかし、企業内と比べると定着の仕方が違い、我々が企業内的なものを当初から求めていたということは、先輩の柏原さんに聞いても落合さんに聞いても違う。今になって定年制をやめようかという企業内も随分ある。柏原さんがアメリカンスタイルで定年制を置かないとしたことが良かったのかも知れないが、結論が出るのはもう少し先である。いずれにしても、労供組合として堂々と今までの経験を元に、若手の加入を促しながら進めていきたい。」と政治状況、労供労組としての自負を語られた。

続いて、太田書記長から活動総括と方針案、会計報告と予算案の提案があり、会計監査報告を受けて質疑応答となった。質問意見発表が東京地本の代議員5名からなされ、篠﨑委員長、太田書記長の答弁を受けて採決となり、反対ゼロ・賛成多数との議長集約で方針案、予算案が確認された。

引き続き佐々木選挙管理委員長から立候補者が定数で全員当選との役員選挙結果の報告があり、全体の拍手で承認された。最後に浦田東京地本西支部長が読み上げた大会宣言案を満場の拍手で採択し終了した。

中央本部役員名簿

中央執行委員長
篠﨑庄平（東京）
副執行委員長
白土武裕（関西）
宮田政邦（東京）
書記長
太田武二（東京）
中央執行委員
楠真一郎（滋賀）
井口隆志（関西）
岩井 肇（東京）
田中 浩（滋賀）
草苅脩二（東京）
会計監査
岸本伸志（関西）
浦田 司（東京）

労供労連第１３回総会
連合・交運労協の来賓を迎えて開催！

去る6月23日、大井町のアワーズイン阪急会議室において開かれた第13回総会は、恒例の松居自運労京都委員長の開会挨拶から始まり、議長団、総会諸役員の選出を受けて、篠﨑庄平会長が「日本の労働組合のなかで99％が企業内組合と言われるなかで一番特異な存在ということでしょうか。安倍政権の経済政策についてはそれがいいことであるならば支持するものは支持し、反対するものは反対していきたいということであります。何れにしても、私たちは労供労連の立場で、限度、限界もありますが、そういうなかで頑張っていきたい。」との趣旨で挨拶。

来賓の寺田非正規労働センター局長は「安倍政権の成長戦略批判と都議選、参議院選挙の取り組み」、交運労協の関事務局長は「交研集会の内容を軸に交通基本法を巡る情勢分」などを含めて激励をいただいた。

その後、資格審査・議事運営報告を受けて、桑嶋事務局長から活動総括と方針案、会計報告。朝倉会計監査報告と続き、一括審議となり、若干の質疑応答の後満場の拍手で確認された。

そして、役員選考委員から留任を基本とする新役員の提案があり、拍手で承認。新任役員2名の紹介と国土交通省交渉の報告を根本会長代行が行い、比与森執行委員が総会宣言案を読み上げて拍手で承認、終了した。

労供労連役員一覧

会長	篠﨑庄平（新運転中央委員長）
会長代行	根本義弘（自運労中央委員長）
副会長	松居順一郎（自運労中央副委員長）
〃	宮田政邦（新運転中央副委員長）
事務局長	桑嶋 正（自運労東京書記長）
事務局次長	太田武二（新運転中央書記長）
執行委員	藤原克己（自運労中央副委員長）
〃	山口喜代重（自運労中央副委員長）
〃	白土武裕（新運転中央副委員長）
〃	田中 浩（新運転滋賀書記長）
〃	田丸春吉（神奈川人材供給委員長）
〃	折井洋之（新運転埼玉委員長）
〃	草苅脩二（新運転中央執行委員）
〃	比与森典博（自運労中央書記長）
会計監査	朝倉哲男（自運労東京監査委員）
〃	佐々木克己（新運転東京執行委員）

参議院選挙を受けて
労供事業の政策制度確立に向けて一層奮闘しよう！

参議院選挙は事前のマスコミ予想の通り、自民党、公明との圧勝となった。一方の民主党は、公示二日前の公認取り消しで必勝を期した東京選挙区で敗北。改選議席の半分にも満たない壊滅的大敗北となった。

今回選挙の投票率が僅か52・6％、戦後3番目の低さとあって、共産党も含め組織の基礎票の厚さが勝敗を分けたという評価もあった。それにしても有権者の僅か20％にも満たない支持票で国会の圧倒的多数を制するというのは、一種のファシズムといえないだろうか。その結果、国会における衆参のねじれ解消から国会と国民多数とのねじれという民主主義の危機に転嫁したとも言える。

その中で健闘したのは、東京選挙区の山本太郎と沖縄の糸数慶子候補の勝利だった。山本氏は、3・11福島原発事故以来の脱原発行動の蓄積。糸数氏は沖縄における普天間基地の辺野古移設に反対する圧倒的多数の世論が、自民党の対立候補を支持した県知事から安倍首相総ぐるみの体制を突き破った。

従って、安倍政権が国会での多数勢力を高に憲法、原発、TPP、消費増税、集団的自衛権、そして沖縄問題などで暴走するならば、今回の選挙に現れた民衆の底力によって手痛いしっぺ返しを受けるに違いない。

また、こうした厳しい政治情勢においてわれわれが果たす役割を見定める必要がある。それは非正規労働者が2000万人を越える労働市場の中で、組織率の低下と運動の閉塞状況にある企業内労働組合運動の壁を乗り越えるためには、新運転の先輩達が挑戦してきた労供事業を軸とする職業別労働組合運動の意義を再確認し、政策制度の拡充に向けて奮闘することがわれわれの責務だと考える。

以心伝心

―厭戦と攻撃精神―

▼先に行われた第23回参議院選挙で自民党は圧勝した。大体は選挙前に予想されていたが、それにしても見事なものだった。それは民主党の負けっぷりである。民主党はひと足早く行われた前哨戦といわれていた東京都議会選挙でも同様の負けっぷりだった。これで自民党は衆・参両院の議席を伸ばし、歴代自民党の長年にわたる悲願を達成させた。お陰でどちらかと言うと常にリベラルな考え方をもつといわれる人達をやがて奮起する側に追いやったかも知れない。それにしても今度の選挙ほど最初から勝敗が解っていたのは珍しい。▼私達組合はまさか自民党へと乗り替えることはままならず、また情勢の変化にないことは解っているだけに船の沈むのをじっと見ているしかない。中には舟の底をバケツで汲み上げている者も居た。▼世間の話しを組合員から聞いていると、厭戦気分が沸騰しているのが解かる。何んで我々に自由な投票をさせないのか。この世の中であれは駄目だからこれに入れろとはどっかの国ではあるまいし、馬鹿々しくてやっていられない。組合である限りはそこには良心と言ったものがないではないかなどである。▼国民に与えられた折角の一票である。ここで言わんとしていることを正しく認識し、次回は組合、その上の団体、更には連合などこの辺りを次回以降の選挙で改革すべきである。